

# 風土記の丘の花だより<sup>215</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2023年12月9日)

万葉植物園の紅葉も色あせ、落葉が進み、下はモミジのじゅうたんです。さて、年末です。今年発行の花だよりも、これを含めてあと3回です。今回も4種類の植物を紹介しましょう。



もうピークは過ぎましたが、少し前からビワの花が咲いています。(これをご覧いただく頃、まだ花が残っているでしょうか) 写真は11月の末に文化財センターの倉庫裏の、よそさんの畑で撮らせていただいたものですが、ビワの木は園路沿いにも所々で見ることができます。ビワは果物として知られていますが、寒くなってから花をつけるバラ科の木で、花の作りも同じ仲間のウメやサクラによく似ています。香りがよく、ハナアブなどとともメジロなども集まってきて、蜜を吸うときに受粉を助けます。



園内あちらこちらでヤブコウジの赤い実が見られます。この実に限らず、辺りが殺風景になる冬は、赤い実が目立ちます。上に伸びず、地面に生え広がるので草みたいですが、これでも木の仲間です。でも、サクラソウ科です。万葉の昔は「山橘・やまたちばな」と呼ばれ、「この雪のけ残る時にいざ行かな 山橘の実の照るも見む」という大伴家持の歌が残されています。緑の葉と赤い実、そこに雪の白が加わると、これぞ冬の風情! というところでしょうか。もうすぐまたそんな季節です。楽しみですね。



「♪ 松を彩る カエデやツタは ♪」という歌に出てくるツタの紅葉です。ツタには二つあって、写真は紅葉するブドウ科のツタ、あと一つは冬でも緑色のウコギ科のキツタです。キツタは冬でも青々しているので「フユツタ」とも呼ばれます。よく見れば一目瞭然、両者は全く違いますが、一括りで「ツタ」と見なされることが多いと思います。この季節はその両者の違いがはっきりします。でも早く見比べないと、ツタは落葉してしまいます。



大池の北に安藤塚(あんどうづか)があります。その池側に大きなダイオウショウ(ダイオウマツ)の木が植えられていて、たくさんの松ぼっくりができています。竪穴住居の南側にもありますが、松ぼっくりはできていません。この松ぼっくりはとても大きく、インテリアや工芸にも用いられ、人気です。台風などの後にはよく落ちています。落ちていたときは硬く閉じて細長いですが、室内で乾燥させると大きく広がります。外来種のマツです。 松下